

# ベジキーパー® 水和剤

## 有効成分と剤型

有効成分：シュードモナス フルオレッセンスG7090  
(*Pseudomonas fluorescens* G7090)  
含有量：1×10<sup>10</sup>cfu/g ※cfuとは、生存している微生物の数を示しています。  
製 剤：水和剤(類白色水和性粗粉)

## 特長

- 耐性菌の出現の心配が少ない薬剤なので、連続散布が可能です。
- 作物に対する安全性が高く、収穫前まで使用出来ます。
- 降雨による影響が少ない薬剤です。
- 農薬散布回数にカウントされませんので、特別栽培農産物に使用出来ます。

## 適用病害および使用方法

| 作物名    | 適用病害名 | 希釈倍数   | 使用量              | 使用時期         | 本剤の使用回数 | 使用方法 | シュードモナスフルオレッセンスを含む農薬の総使用回数 |
|--------|-------|--------|------------------|--------------|---------|------|----------------------------|
| レタス    | 腐敗病   | 1,000倍 | 100~300<br>ℓ/10a | 発病前~<br>発病初期 | —       | 散布   | —                          |
| 非結球レタス |       |        |                  |              |         |      |                            |
| キャベツ   | 黒腐病   |        |                  |              |         |      |                            |
| はくさい   |       |        |                  |              |         |      |                            |
| ブロッコリー | 花蕾腐敗病 |        |                  |              |         |      |                            |

### ⚠ 使用上の注意

- 有効成分は生菌であるので、開封後はすべて使い切ってください。
- 使用時期が遅れると効果が劣る場合があるので、できるだけ(花蕾)腐敗病、黒腐病発病前から散布してください。
- 多くの殺虫剤、殺菌剤と混用できますが、例外として本菌に活性のある有効成分、乳剤および特定の展着剤とのタンクでの混用はできません。
- 散布後、長期に日照りが続くと効果が劣る場合があるので、再度散布することをおすすめします。
- 散布により収穫物に汚れが生ずるおそれがあるので、収穫前の散布には注意をしてください。
- 使用する前に、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

### ⚠ 保管上の注意

- 有効期限は5℃以下で4年です。
- 常温で保存する場合は6ヶ月以内に使用してください。
- 直射日光をさけ、冷暗所に食品と区別して保管してください。
- 夏場は冷蔵庫保存(10℃以下)をおすすめします。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。

## ベジキーパー普及会

アリスタライフサイエンス株式会社

協友アグリ株式会社

日産化学工業株式会社

[事務局] セントラル合同肥料株式会社  
アグリバイオ営業部

# 収穫前まで 連続して散布できます。

(花蕾)腐敗病・黒腐病の微生物防除剤

# ベジキーパー® 水和剤



ベジキーパー菌



# ベジキーパー<sup>®</sup>水和剤

## 有効成分は「生きた菌」



- 病原菌と競合することで腐敗病・黒腐病を防除します。
- 病原菌への殺菌効果は無いので、耐性菌の心配がありません。



病原菌より先に作物表面の栄養分を食まう

発病前～発病初期にベジキーパー水和剤を散布

栄養分が乏しくこれ以上増えられない!

ベジキーパー菌が増えて病原菌の量を抑えることで腐敗病や黒腐病を防除します

### 上手な使い方

#### ○散布時期

病原菌と競合することで病害を防除するので、予防的に散布してください。早めに散布することで、ベジキーパー菌を定着させ、病原菌の発生を少なくすることが出来ます。

#### ○散布水量

作物の生育ステージに合わせ、作物がしっかり濡れる程度に十分量散布してください。

#### ○化学農薬との併用

発病してしまっからの防除では、殺菌力により効果を出す化学農薬との交互散布も有効です。病原菌を殺菌した後にベジキーパー菌を定着させることで、より安定した効果が期待できます。その場合、ベジキーパーは化学農薬散布から3日以上あけてください。ベジキーパー散布後の化学農薬散布は、ベジキーパーの効果が続く7日以上あけることが出来ます。



### 腐敗病とは

レタス腐敗病やブロッコリー花蕾腐敗病は主にシュドモナス菌類によって引き起こされる病害で、特に高温多湿の気象条件では被害が大きくなります。レタスでは高冷地の夏季収穫の作型、平坦地の秋から初冬に収穫する作型と冬季トンネル栽培する作型などで、またブロッコリーでは夏季収穫の作型などで多発します。

### レタス・キャベツ

発病前の結球初期から7日間隔で3回程度本剤を連続散布する。結球前でも感染・発病のおそれがあるときは、散布を開始する。

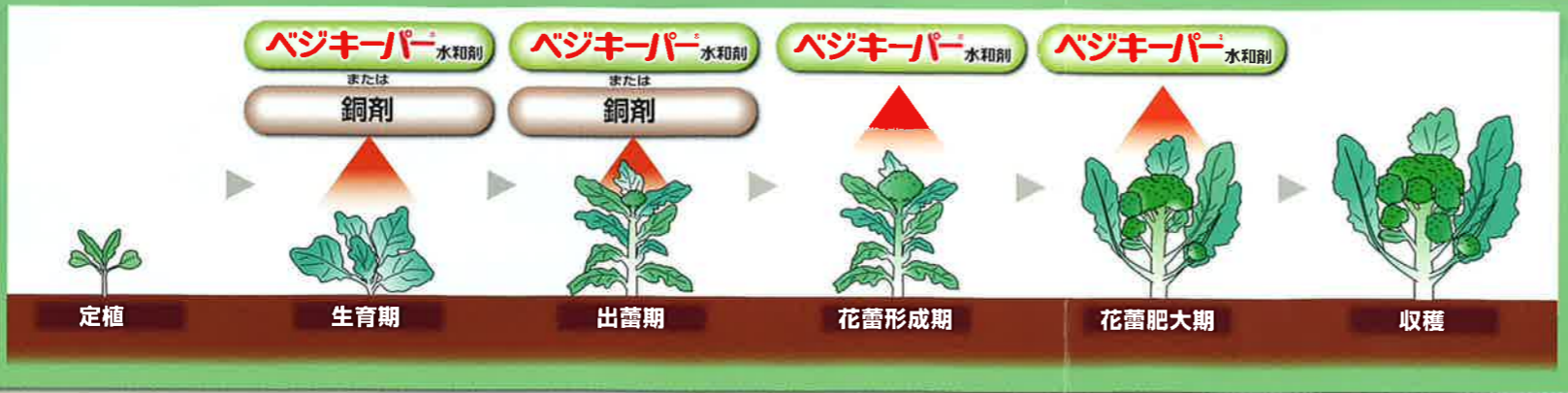


| 防除例       | 定植後日数 | 薬剤散布 |       |     |        |        |        | 43日(調査) |      |        |
|-----------|-------|------|-------|-----|--------|--------|--------|---------|------|--------|
|           |       | 5日   | 10日   | 16日 | 22日    | 26日    | 34日    | 発病株率(%) | 発病度  | 防除値(%) |
| ベジキーパー処理区 | —     | 銅剤   | 銅剤    | 銅剤  | ベジキーパー | ベジキーパー | ベジキーパー | 8.1     | 5.2  | 86.0   |
| 慣行薬剤区     | —     | 銅剤   | 抗生物質剤 | A剤  | A剤     | B剤     | C剤     | 22.2    | 11.1 | 70.0   |

※A,B,C剤は化学合成農薬

### ブロッコリー

発病前の花蕾形成初期から、5～7日間隔で3回程度本剤を連続散布する。花蕾形成期前でも感染・発病のおそれがあるときは、散布を開始する。



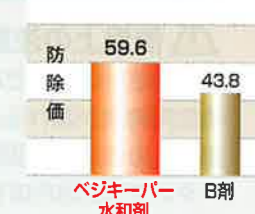
レタス腐敗病



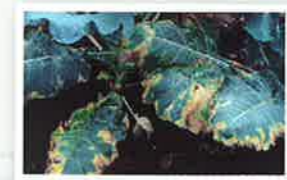
長野県野菜花き試験場 佐久支場(平成14年)  
 ●病害発生状況:中発生(接種) ●品種:シノノサマー  
 ●播種日:2003年4月22日 ●定植日:2003年5月14日 ●栽培:露地マルチ栽培 ●処理回数:2003年6月5,12,19日 3回散布 ●処理方法:1000倍、250ℓ/10a散布、展着剤加用



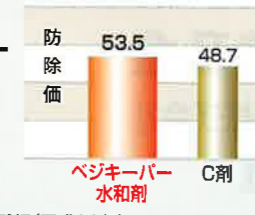
キャベツ黒腐病



静岡県農業試験場(平成15年)  
 ●病害発生状況:中発生 ●品種:R77 ●定植日:2004年11月18日 ●栽培:年明け以降不織布で被覆 ●処理回数:2005年2月3,10,17日 3回散布 ●処理方法:1000倍、67mℓ/株散布、展着剤加用



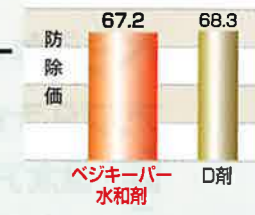
ブロッコリー黒腐病



長野県野菜花き試験場(平成20年)  
 ●病害発生状況:中発生(接種) ●品種:ピクセル ●定植日:2008年5月14日 ●栽培:露地マルチ栽培 ●処理回数:2008年6月16,24,30日、7月7日 4回散布 ●処理方法:1000倍、300ℓ/10a散布、展着剤加用



ブロッコリー花蕾腐敗病



北海道立花・野菜技術センター(平成19年)  
 ●病害発生状況:中発生 ●品種:緑嶺 ●定植日:2007年6月4日 ●栽培:露地栽培 ●処理回数:2007年7月30日、8月6日 2回散布 ●処理方法:1000倍、150ℓ/10a散布、展着剤加用